

令和8年度 なごみ福祉会生活ホーム 地域連携推進会議 実施報告内容

日時： 令和8年4月11日（土） 10：45 ～ 11：45

場所： モンマルトル1階

【当日の流れ】

※※10：50 ～ 開 会

理事長あいさつ

事業部長あいさつ

川端管理者あいさつ

生活ホーム運営報告

質疑応答

※※12：00 ～ 閉 会

【参加者】

〈利用者〉 影山

〈ご家族〉 影山、大久保、藤野、松永、田中、石川、浅輪、芦川、幕内、根本、楢田

〈自治会・町内会代表〉 米山

〈花笑の会団体代表〉 石川

〈後見人〉 小嶋

【運営報告の内容】

現在、高齢化、自然災害、人材不足という「3つの大きな時代の波」に直面している。これらに対し、従来の事後対応型から「予防型支援体制」へと大きく舵を切っている。

この体制は、**「豊かな生活の維持」「徹底したリスク管理」「持続可能なシステム作り」**の3本の柱で支えられており、ICTの導入やスタッフの職場環境改善を通じて、質の高いケアの安定提供を目指している。

長期的には、南生田地区において利用者でも尊厳を持って暮らせる新しいグループホームの建設を計画しており、医療や地域社会と連携した包括的なネットワークの構築を進めている。

1. 基本理念と「利用者本位」の徹底

なごみ福祉会のすべての活動は、**「共に生き、共に育つ」**という理念に基づいている。これは単なるスローガンではなく、家族・利用者への確かな「約束」として位置づけられている。

「人生の主役は本人である」という事実を重視し、以下のサイクルを繰り返すことで、その方のためだけの支援を創出する。

- **傾聴：** 本人の「こうしたい」という声に耳を傾ける。

- **計画：** 関係者全員でプランを練る。
- **実行：** プランに基づいた支援を行う。
- **見直し：** 本人と共に対話を重ね、改善する。「計画がその人の人生を決めるのではない。

その人のこうしたいという思いが計画を作る。この順番だけは何があっても譲れない。」

意思決定支援の推進

- 障害の重さにかかわらず、本人の意思が生活に反映される支援を目指す。
- 「地域移行意思確認」を定期的に行い、ニーズを把握して個別支援計画に反映させる。
- 個別支援作成会議において、本人の意向を丁寧に聞き取り、会議自体の振り返りも行う。

2. 時代背景と「予防型支援体制」への転換

なごみ福祉会は、直面する現実的な課題を包み隠さず共有し、信頼関係を築くことを重視している。

直面する3つの課題

1. **高齢化：** 利用者の親世代および利用者自身の高齢化。
2. **自然災害：** 増え続ける災害の脅威。
3. **人材不足：** 日本全体の介護・福祉業界における深刻な問題。

予防型支援へのシフト

問題が起きてから対応する「事後対応」から、問題が起きにくい環境を先回りして整える「予防」へ

と支援のあり方を転換する。

3. 新しい支援体制を支える「3本の柱」

予防型支援体制を一つの「家」に見立て、以下の3本の強固な柱で構成する。

第1の柱：豊かな生活の守護

第2の柱：徹底したリスク管理

第3の柱：持続可能なシステム作り

4. なごみ生活ホームの現状と運営体制（令和8年度時点）

利用者およびホームの状況

項目,内容

利用者総数,78名（男性46名、女性32名）

主な障害,知的障害、自閉症、ダウン症、発達障害など

ホーム数,計16ホーム（男子10、女子6）

主要エリア,栗谷、新栗谷、南生田、長沢

入居の経緯,地域から10名、施設から5名（令和4年～7年末実績）

支援の質の向上と安全管理

- **身体拘束・虐待防止：** 委員会の設置と職員研修を義務付け、人権擁護に努める。身体拘束は原則行わず、やむを得ない場合は事前に家族と協議し記録を取る。
- **感染症対策：** 看護師（衛生推進委員）と連携し、マニュアル整備と年2回以上の研修・訓練を実施する。
- **BCP：** マニュアル整備と研修・訓練の実施報告をする。

5. 包括的な暮らしを支える具体的なサービス

食事の支援

「なごみ」の強みとして、質の高い食事提供を継続している。

高齢化・重度化への対応

6. 未来への展望：南生田地区プロジェクト

なごみ福祉会生活ホームは、住み慣れた地域で継続して生活できるよう、長期的なビジョンを掲げている。

- **「グループホーム」の建設：** 南生田地区において、利用者が人としての尊厳を持って暮らせる新しいグループホームを計画中。「新しいグループホームについては、現在使用してい

るアパート型のグループホームの老朽化が進み、現在暮らしている利用者さんが移居して暮らす事を考えている」

- **包括的ネットワーク：** 建物という「箱」の提供だけでなく、医師、薬局、地域社会とがっちり繋がった「支援のネットワーク」そのものを構築する。
- **家族への約束：** 最高のパートナーとして、家族と共に「本当の安心」を探し続けることを最大の約束としている。「ご家族にとって本当の安心とは何か。それは私たちが一方的に提供するものではなく、皆さんと手を取り合って一緒に見つけ出し、探し続けていくものです。」

【当日の質疑応答】

住み慣れた地域で継続して生活できるよう、長期的なビジョンについて、

Q、 グループホームの建設についてですが、具体的にどこまで進んでいますか？ご家族の意見なども参考にしてくれるのであれば、設計の段階から意見など言えるのか？

A、 新しいグループホームについては、先ず現在使用しているアパート型のグループホームの老朽化が進み、

現在暮らしている利用者さんが移居して暮らす事を考えていることを加えて話す。

現在、建設資金計画を作成し、6月の理事会・評議員会で議決といただければ、スタートになる。

それに向けて準備をおこなっているところである。設計の図面については、今までも何度もお世話

になり建設してもらっているところに同じようにお世話になる方向。建設後も修繕フォローにも安心がある。なので、今まで建設してきたグループホーム同様の図面内容になることを伝える。

Q、 食堂については、どのような使い方を考えているのか？もし食堂を貸してほしい時は、連絡して利用は可能になるのか？

A、 食堂利用については、平日は夢花工房利用者が昼食を食べる場所として利用します。

週末については、連絡を頂ければ貸出しは可能です。 食堂の使い方についても、家族と共に、手を取り合って考えていければと思っていることを話す。

Q、 食堂については、子ども食堂とか？飲食を売り出したりは？

A、 子ども食堂については、不特定多数の人の出入りが本来の事業目的から外れているとみなされる可能性もあるので、協議は必要になる。利益経営的な面では考えてはいない。登録もそうですし、運営ルール(HACCP)も簡単ではないので、慎重に進めるつもりです。無理やリスクにつながることはないように、利用についても考えていきたいと思います。

以 上